

5.4 注目すべき種の分布状況

近年、ペットショップなどで購入した国外外来種が逃げ出したり、野外へ遺棄されるなどして、本来は日本に生息しない種が野外に生息し、農作物被害や生態系に深刻な影響を与えるケースがみられます。

ここでは、以上のような、国外外来種の中で主にペット由来と考えられる種の、河川水辺の国勢調査での確認状況について整理しました。

【飼育（ペット）由来の国外外来種】

(両生類・爬虫類・哺乳類調査)

● ミシシippアカミミガメは増加傾向

国外外来種の中でペット由来と考えられる種のうち、特定外来生物に指定されていない5種（キバラガメ、ミシシippアカミミガメ、アナウサギ、チョウセンシマリス、ゴールデンハムスター）を対象として、確認状況を整理しました。

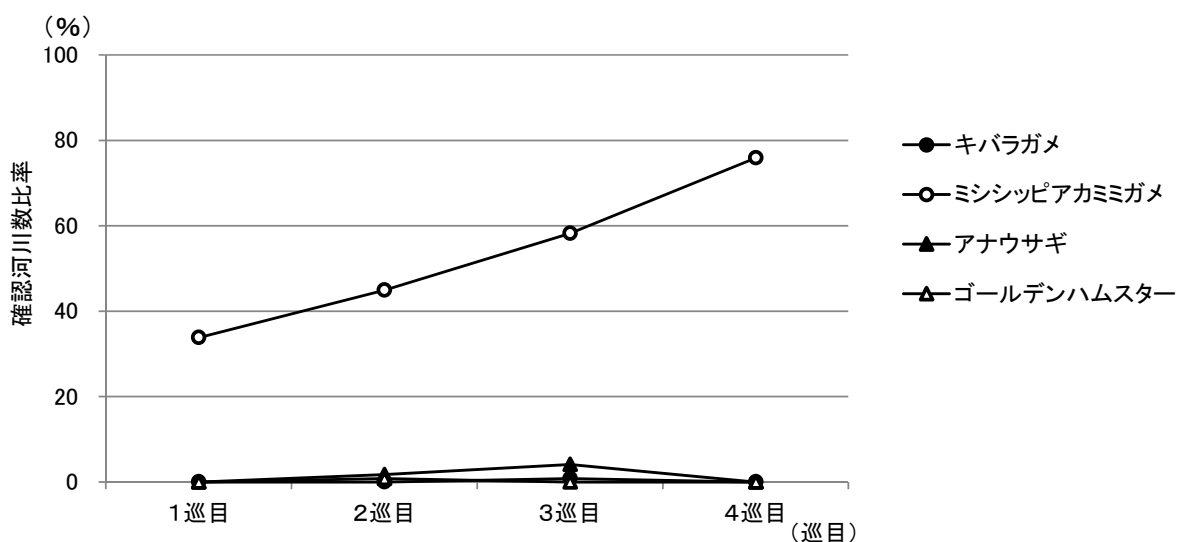
これらのうち、キバラガメ、ミシシippアカミミガメ、アナウサギ、チョウセンシマリスについては生態系被害防止外来種リスト*に指定されています。

今回とりまとめを行った7河川のうち、ミシシippアカミミガメが5河川で確認され、新規に確認された河川はありませんでしたが、1巡目調査から、確認河川数の割合が徐々に増加しており、分布の侵入・拡大傾向がみられました。また、中部地方の豊川で1巡目調査から継続して確認されました。キバラガメ、アナウサギ、チョウセンシマリス、ゴールデンハムスターは確認されませんでした。

(資料掲載：5-37～5-44ページ、5-47～5-48ページ)

1～4巡目調査の確認河川数の比較

種類	1巡目調査 (74河川)	2巡目調査 (118河川)	3巡目調査 (122河川)	4巡目調査 (112河川)
キバラガメ	0河川 〔0.0〕	0河川 〔0.0〕	1河川 〔0.8〕	0河川 〔0.0〕
ミシシippアカミミガメ	25河川 〔33.8〕	53河川 〔44.9〕	71河川 〔58.2〕	85河川 〔75.9〕
アナウサギ	0河川 〔0.0〕	2河川 〔1.7〕	5河川 〔4.1〕	0河川 〔0.0〕
チョウセンシマリス	0河川 〔0.0〕	0河川 〔0.0〕	0河川 〔0.0〕	0河川 〔0.0〕
ゴールデンハムスター	0河川 〔0.0〕	1河川 〔0.8〕	0河川 〔0.0〕	0河川 〔0.0〕



- ※ 確認河川数の比較は、調査実施全河川のうち、直轄管理区間のデータを対象とした。
- ※ 1～3巡目調査のデータは調査実施全河川のうち、種名等について真正化され、河川環境データベースに格納されている調査データを対象にした。
- ※ () 内は調査実施河川数を示す。
- ※ [] 内は確認河川数の調査実施河川数に対する割合 (%) を示す。

※生態系被害防止外来種リスト（我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト）とは、我が国の生物多様性を保全するため、さまざまな主体の参画のもとで外来種対策の一層の進展を図ることを目的とし、環境省及び農林水産省が「生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼす又はそのおそれがある生物」を生態的特性及び社会的状況も踏まえて選定した外来種リストです。

キバラガメは北米原産で、ミシシippアカミミガメと同じアカミミガメ属に属し、腹甲が黄色く、ペットショップなどで販売されています^{注1)}。在来種のクサガメやイシガメと生息環境が競合すると考えられており、キバラガメがこれら在来2種の生息に影響を与えることが憂慮されています。今回のとりまとめでは確認されませんでしたでしたが、3巡目調査に関東地方の荒川1河川で確認されました。

ミシシippアカミミガメは、北米原産で1950年代後半から、いわゆる「ミドリガメ」として販売・飼育され、1960年代後半から、野外で野生化した個体が見つかるようになりました^{注4)}。現在では北海道、本州、四国、九州のほかに、沖縄や小笠原父島からも生息が確認されています。河川や池沼、水田などに広く生息し、在来種のクサガメやイシガメと生息環境が競合^{注2,3,5)}すると考えられており、ミシシippアカミミガメがこれら在来2種の生息に影響を与えることが憂慮されています。今回のとりまとめでは、飼育由来の外来種として対象とした5種中唯一確認されました。また1巡目調査から、確認河川数の割合が徐々に増加しており分布の侵入・拡大傾向がみられました。7河川中5河川で確認されており、新規に確認された河川はありませんでしたが、中部地方の豊川で1巡目調査から継続して確認されました。

アナウサギは、原産地がイベリア半島とアフリカ北西部ですが、世界各地に移入され野生化しています^{注4)}。日本ではカイウサギとして知られ、簡易な施設で飼育できるので、幼稚園や学校などでよく飼育されます。本種は、植食性で植物に対する影響が懸念されています^{注6)}。今回のとりまとめでは確認されませんでしたでしたが、過去の調査では、今回のとりまとめ対象以外の河川を含めて、2巡目調査で2河川、3巡目調査で5河川において確認されました。

チョウセンシマリスは、ペットとして輸入された個体が各地で逃げ出し野生化して、日本産のエゾシマリスとの交雑や置き換わりが懸念されています^{注4)}。今回のとりまとめを含むこれまでの調査では確認されませんでした。

ゴールデンハムスターは、人によく馴れて飼いやすいため、ペットショップでもよく販売されています^{注7)}。今回のとりまとめでは確認されませんでしたでしたが、過去の調査では、今回のとりまとめ対象以外の河川を含めて、2巡目調査の1河川で確認されました。

今回のとりまとめでは、国外外来種の中でペット由来と考えられる種の確認は、ミシシippアカミミガメの1種だけでした。国外外来種は野外に放たれた場合、農作物被害や生態系に深刻な影響を与える等、様々な問題を及ぼす恐れがあり、ペットについても取り扱いに注意することが必要です。

注1) 出典：標準原色図鑑全集 19 動物 I. 保育社。

注2) 出典：原色両生・爬虫類. 家の光協会。

注3) 出典：日本の両生類・爬虫類. 小学館。

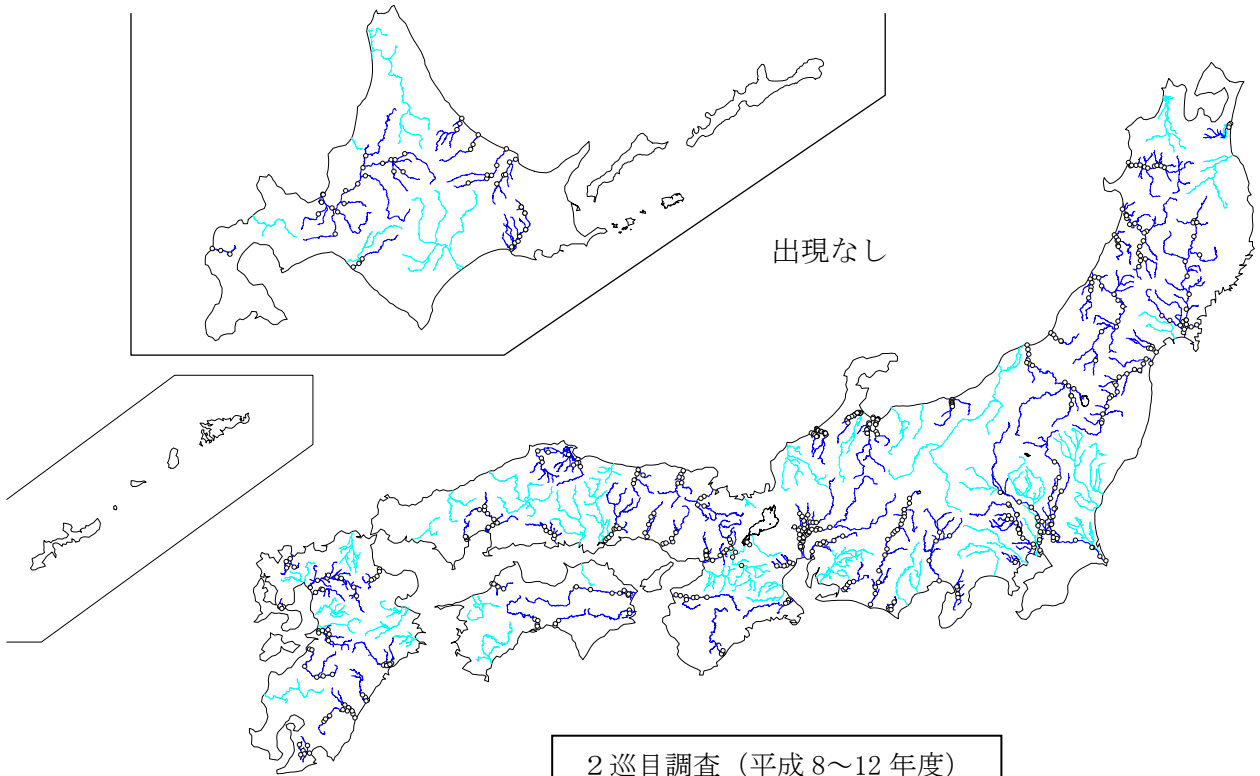
注4) 出典：外来種ハンドブック. 地人書館。

注5) 出典：北海道ブルーリスト. 北海道。

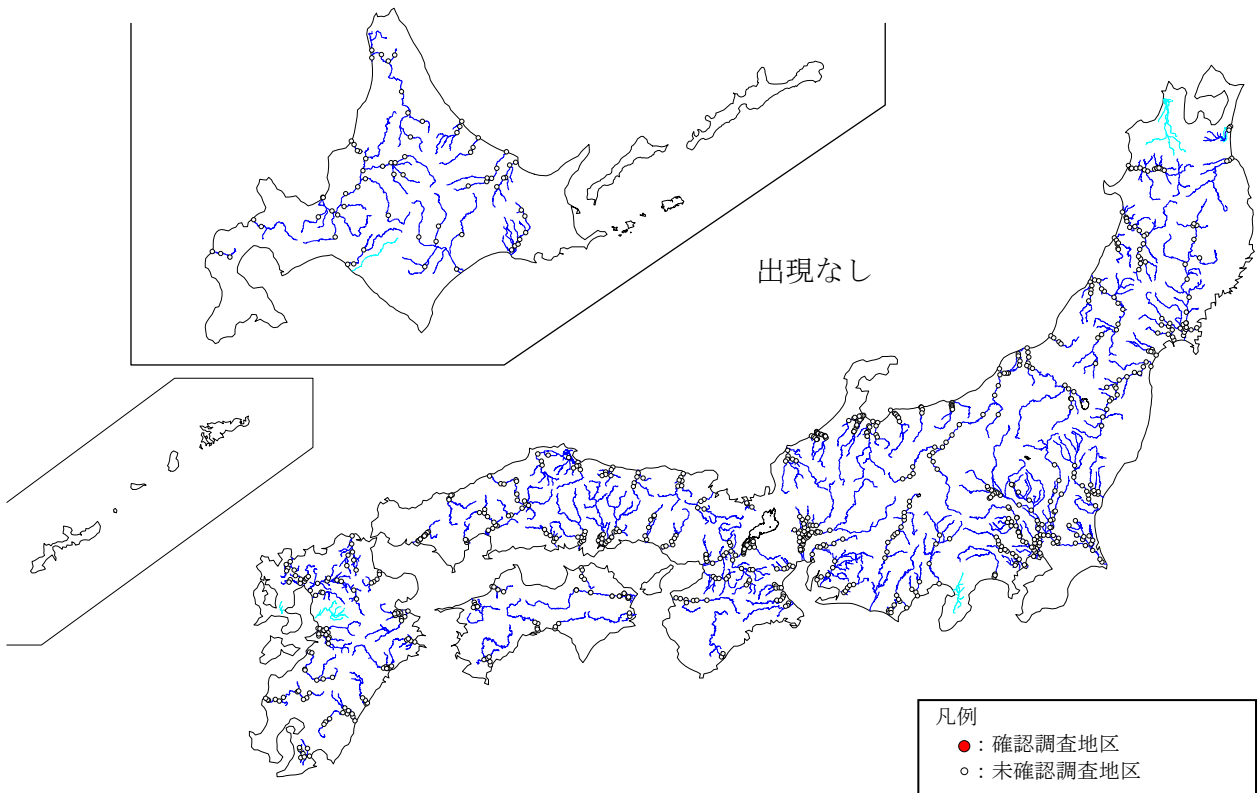
注6) 出典：日本の哺乳類[改訂版]. 東海大学出版会。

注7) 出典：日本動物大百科 2 哺乳類 II. 平凡社。

1 巡目調査（平成 3～7 年度）



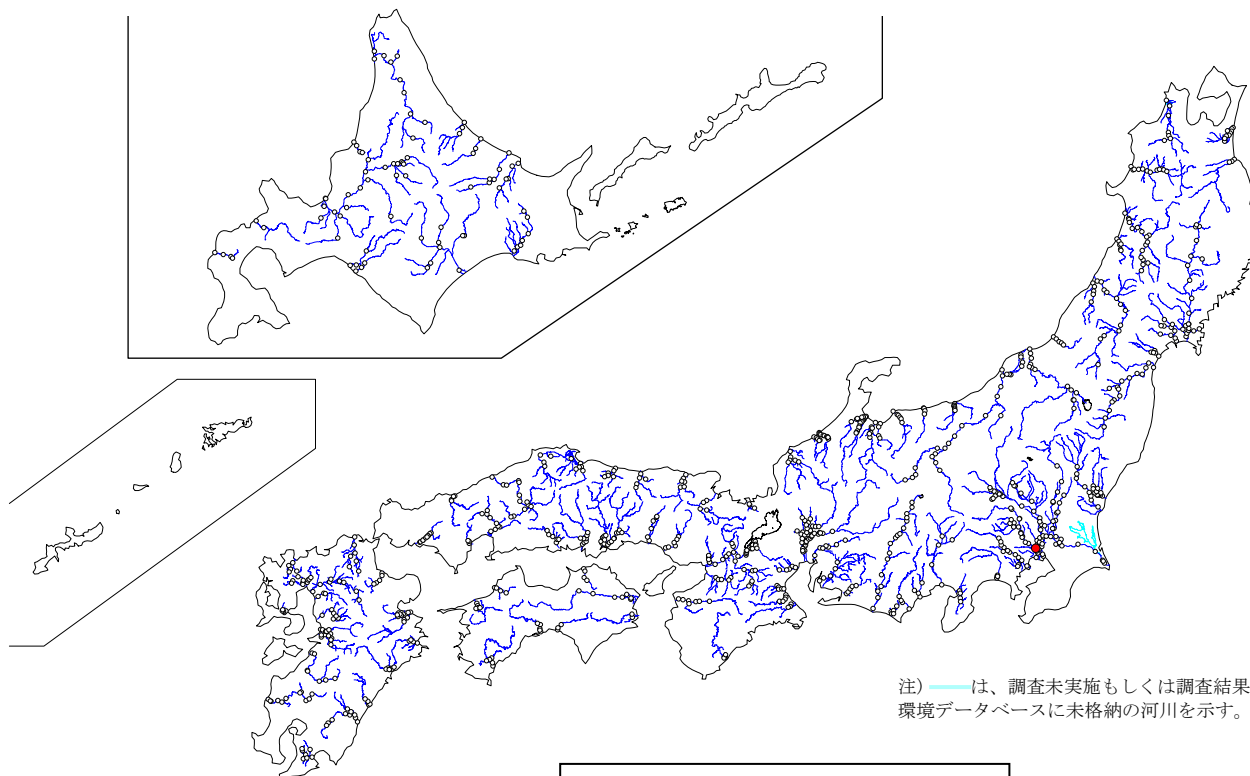
2 巡目調査（平成 8～12 年度）



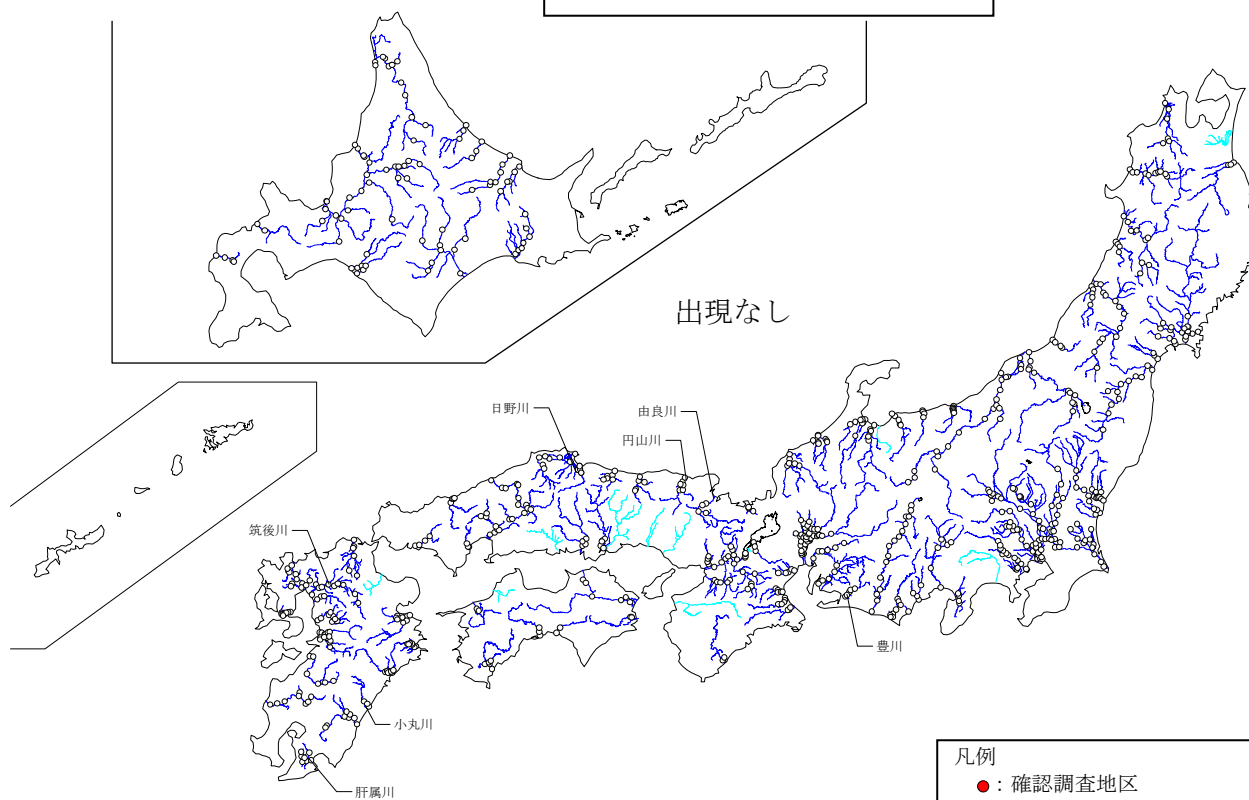
注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

キバラガメの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）

3 巡目調査 (平成 13～17 年度)

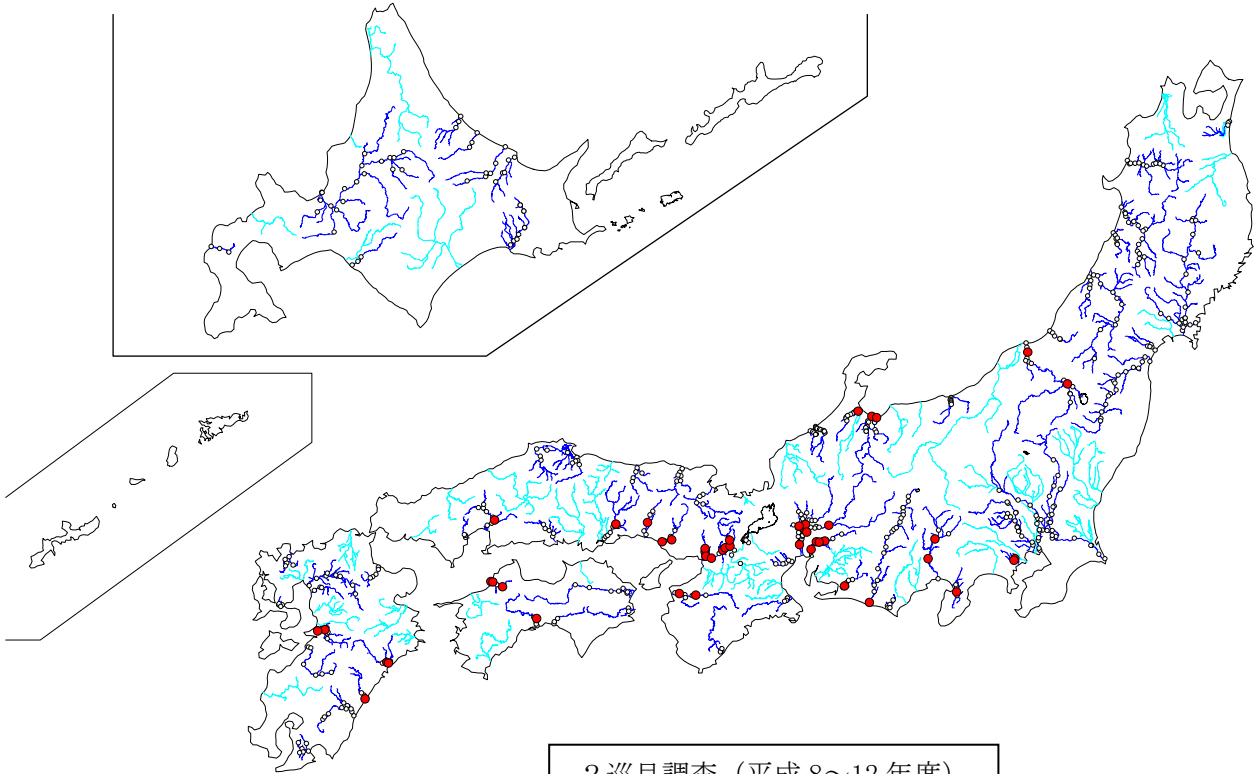


4 巡目調査 (平成 18～26 年度)

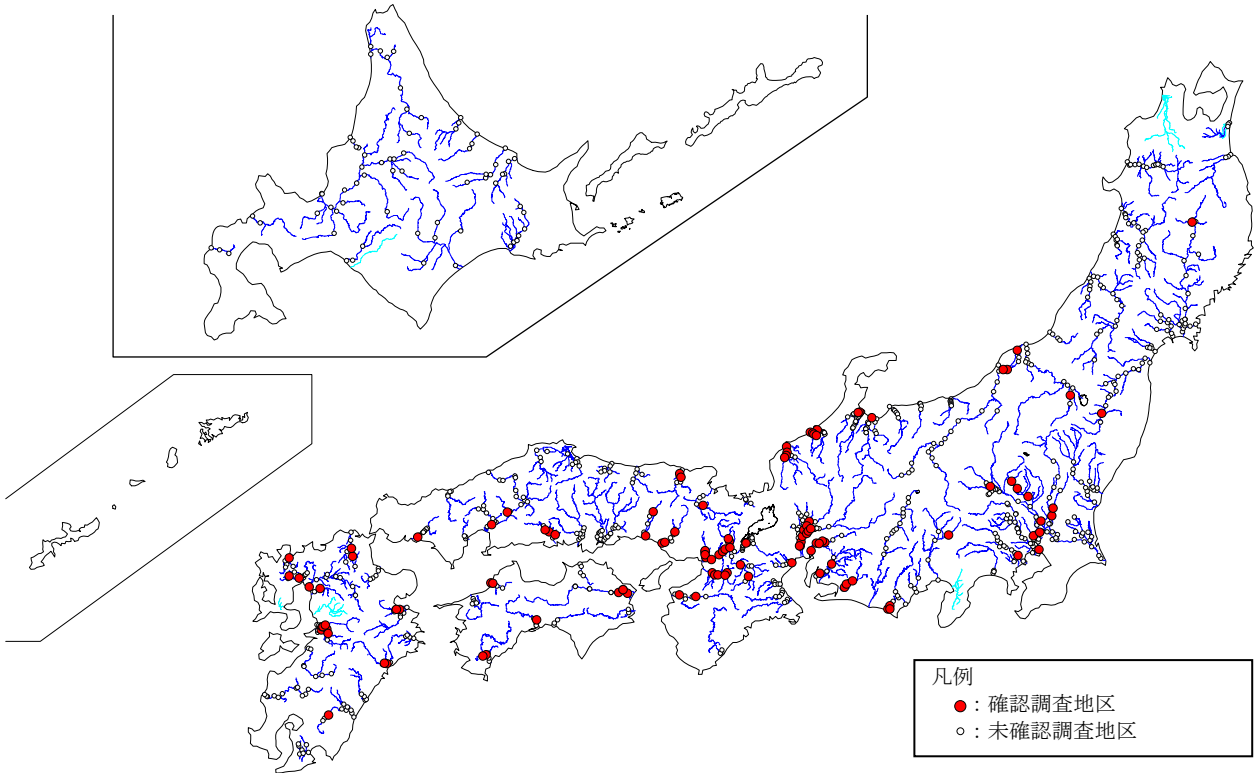


キバラガメの確認された地域 (3 巡目調査、4 巡目調査)

1 巡目調査（平成 3～7 年度）



2 巡目調査（平成 8～12 年度）

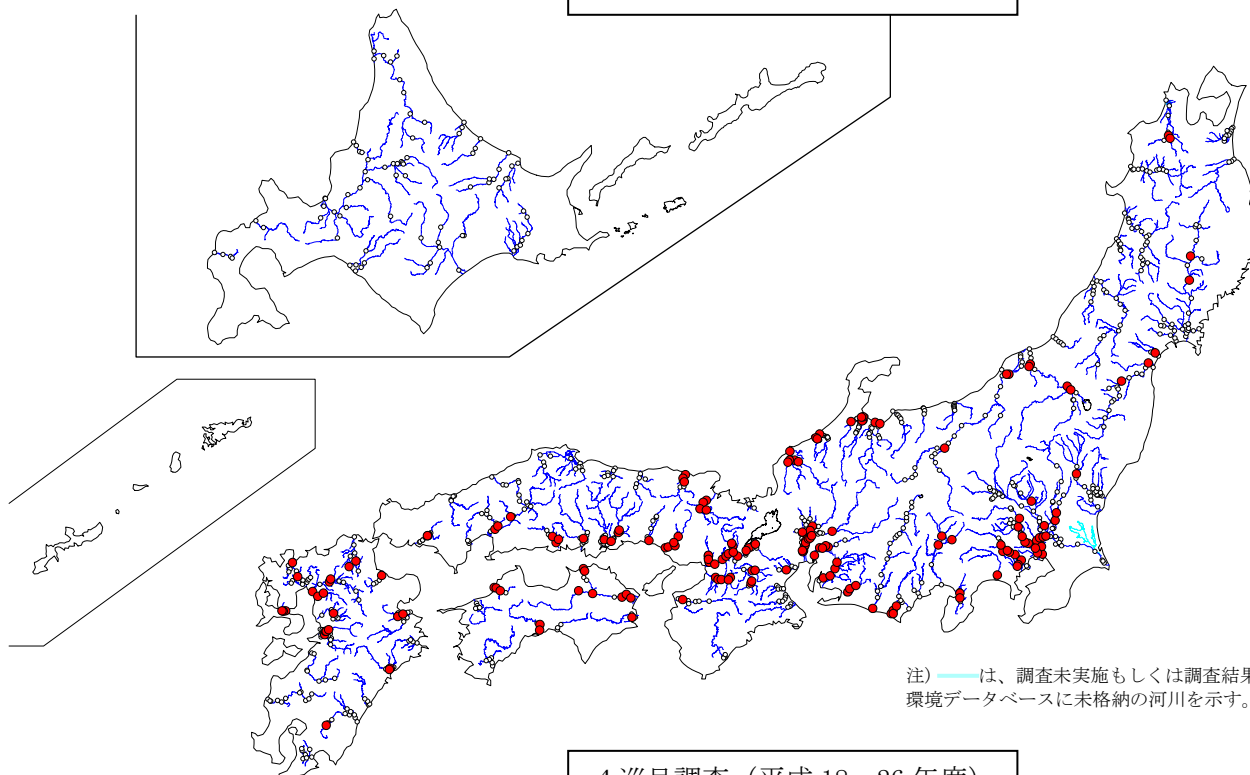


- 凡例
- : 確認調査地区
 - : 未確認調査地区

注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

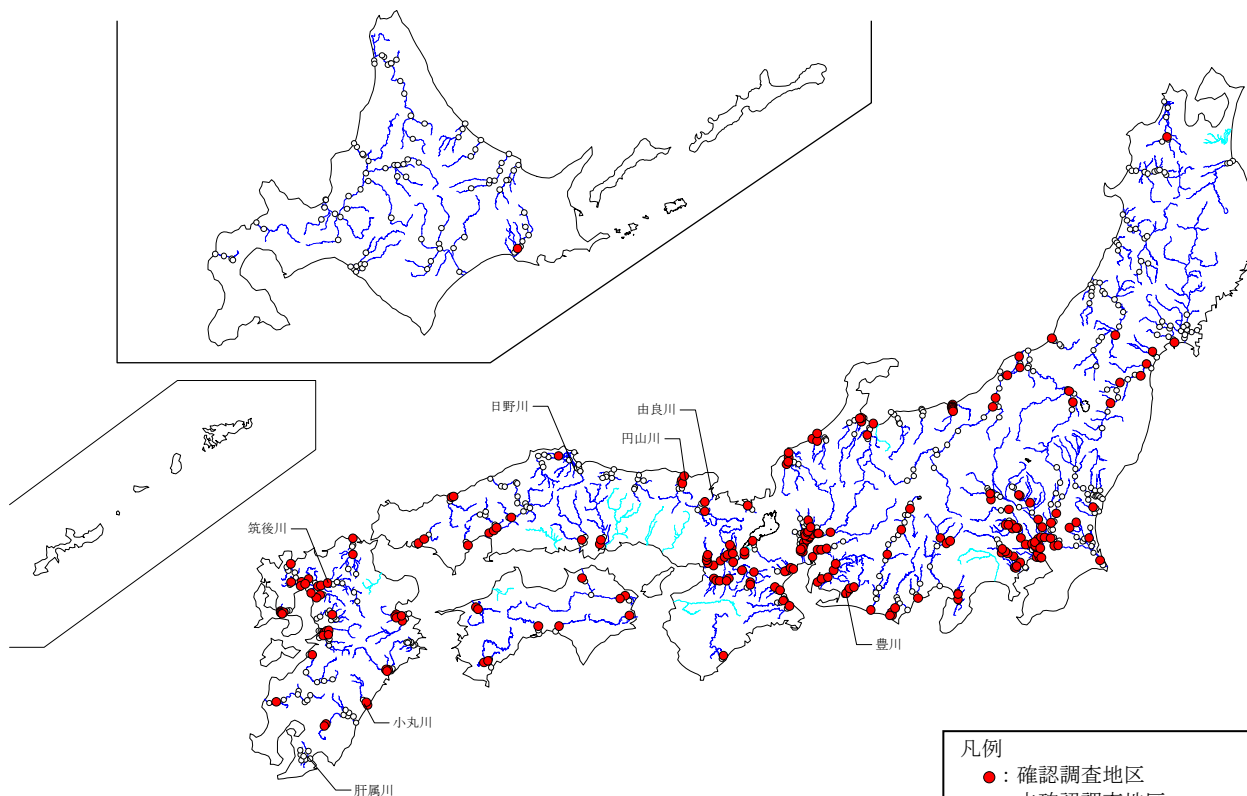
ミシシippアカミミガメの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）

3 巡目調査 (平成 13~17 年度)



注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

4 巡目調査 (平成 18~26 年度)

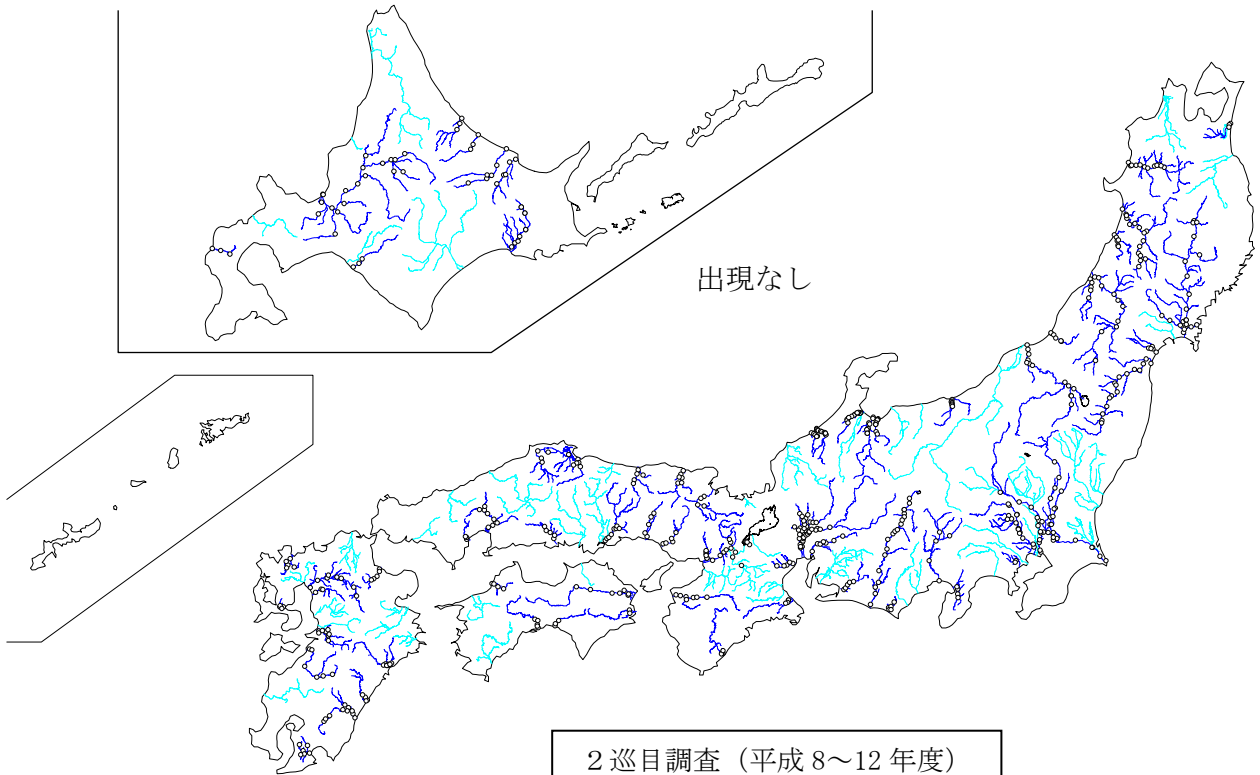


- 凡例
- : 確認調査地区
 - : 未確認調査地区
- (河川名は平成 26 年度とりまとめ対象河川を示す)

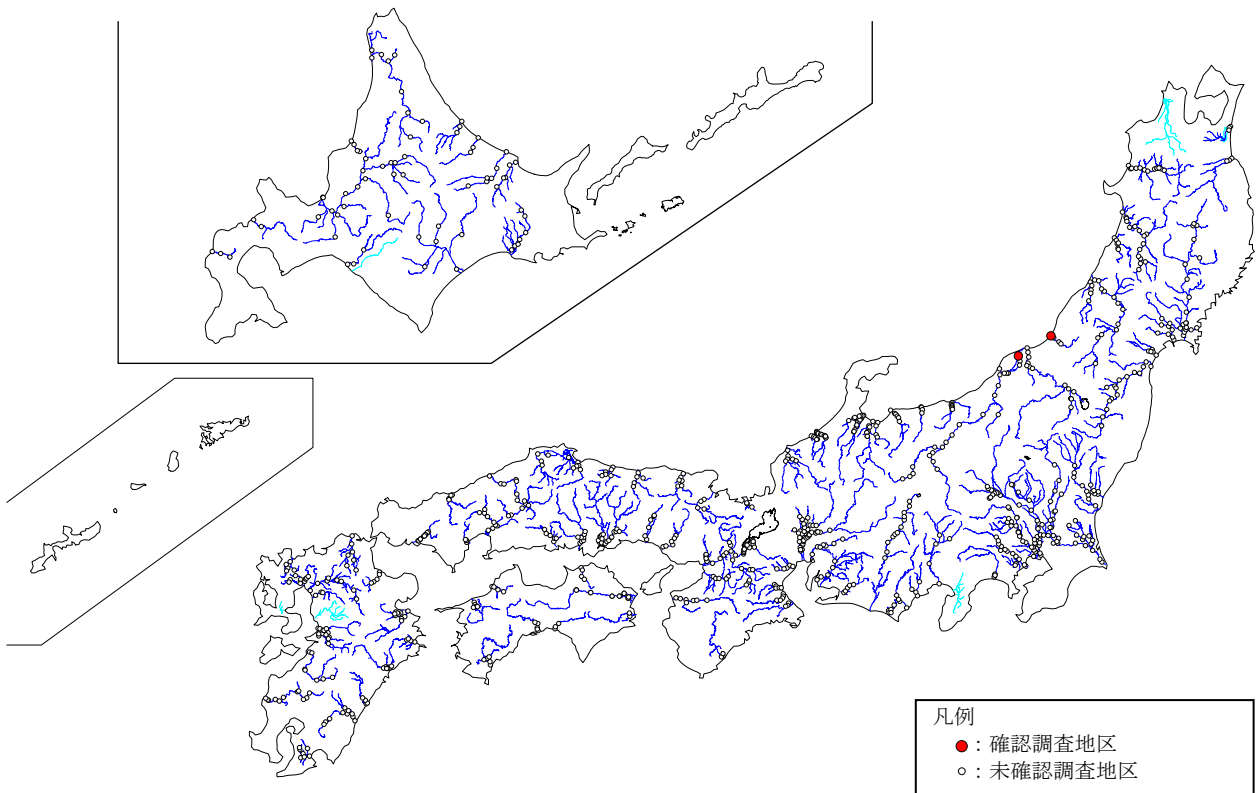
注) 〓は、調査未実施の河川を示す。

ミシシippアカミミガメの確認された地域 (3 巡目調査、4 巡目調査)

1 巡目調査（平成 3～7 年度）



2 巡目調査（平成 8～12 年度）

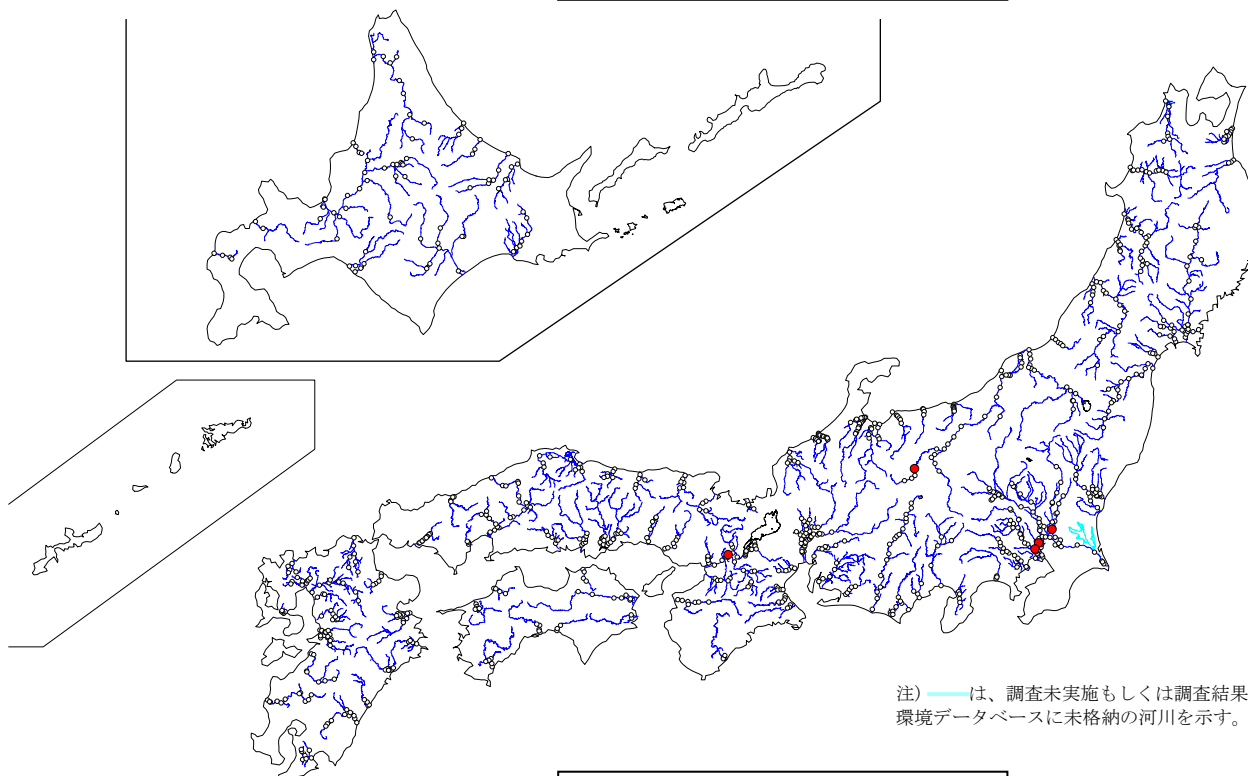


- 凡例
- : 確認調査地区
 - : 未確認調査地区

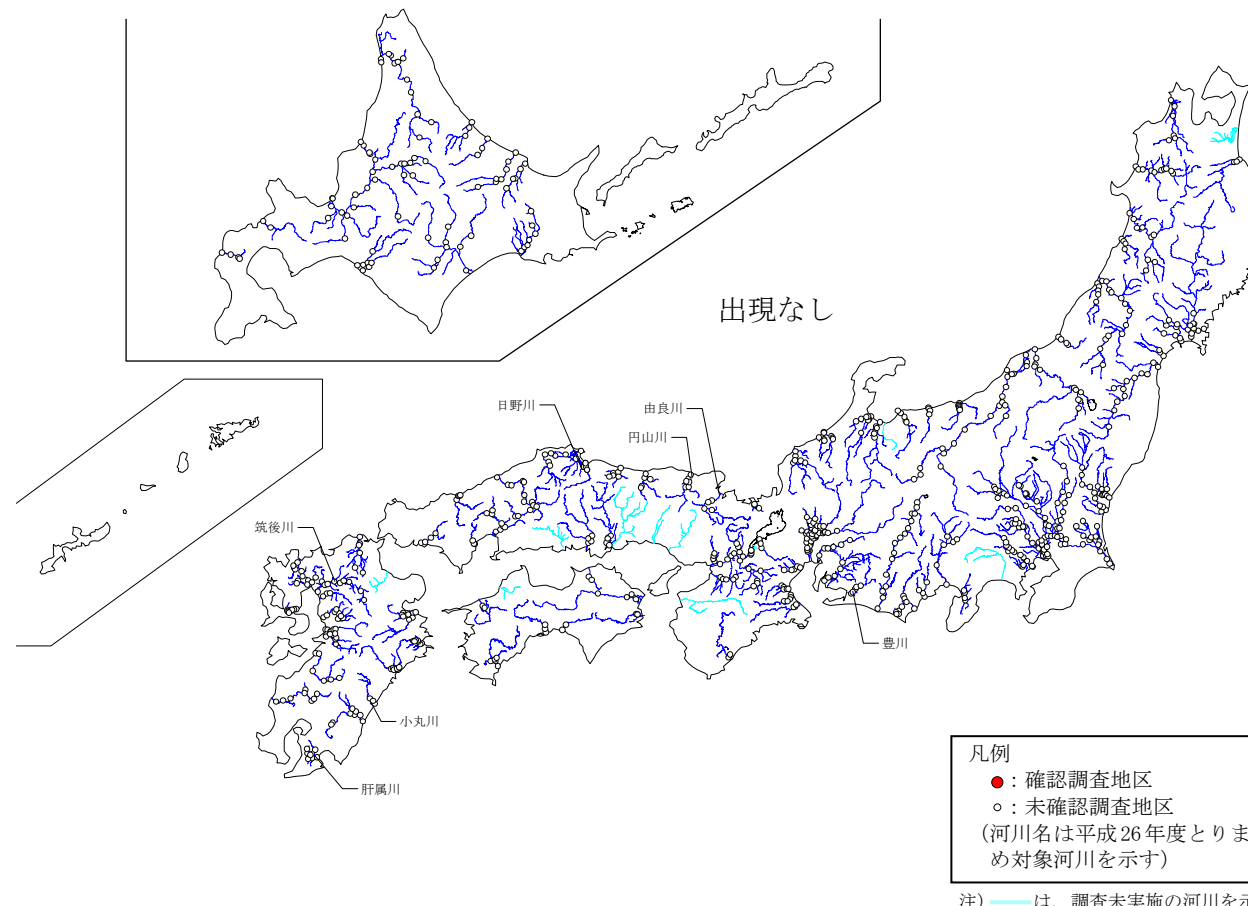
注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

アナウサギの確認された地域（1 巡目調査、2 巡目調査）

3 巡目調査（平成 13～17 年度）

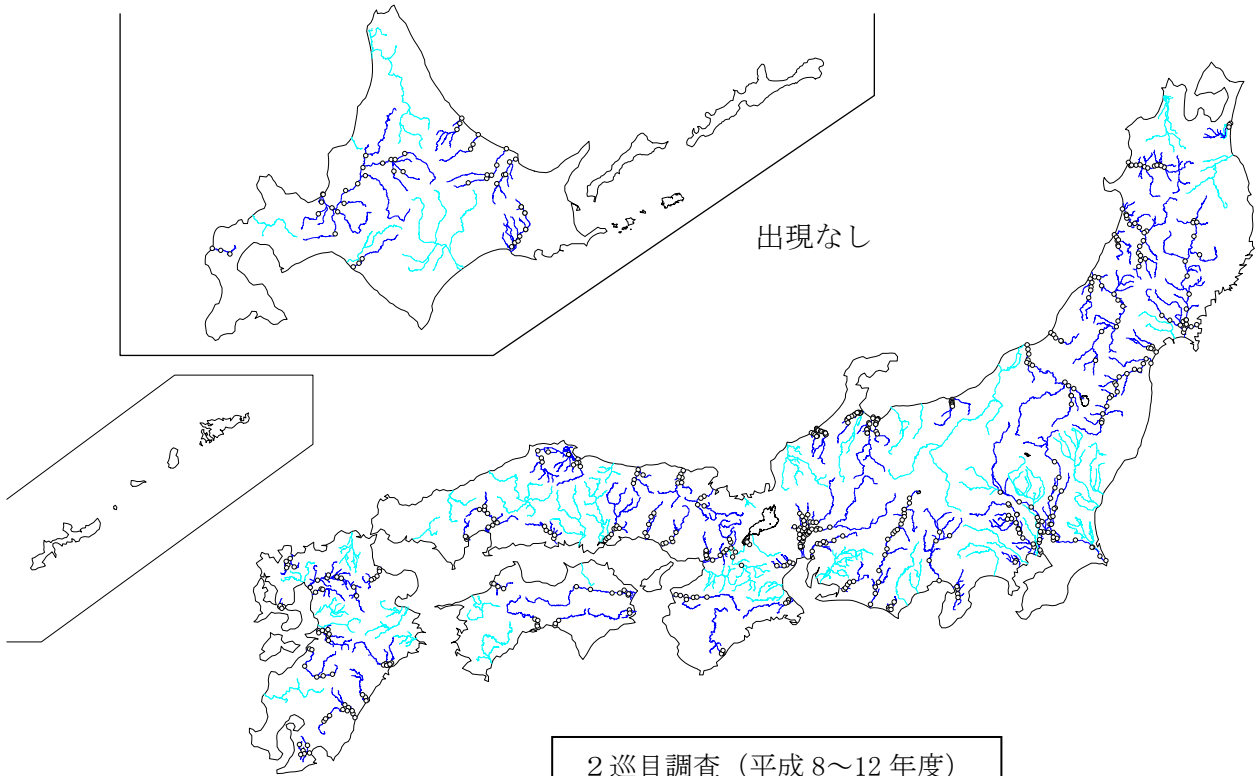


4 巡目調査（平成 18～26 年度）

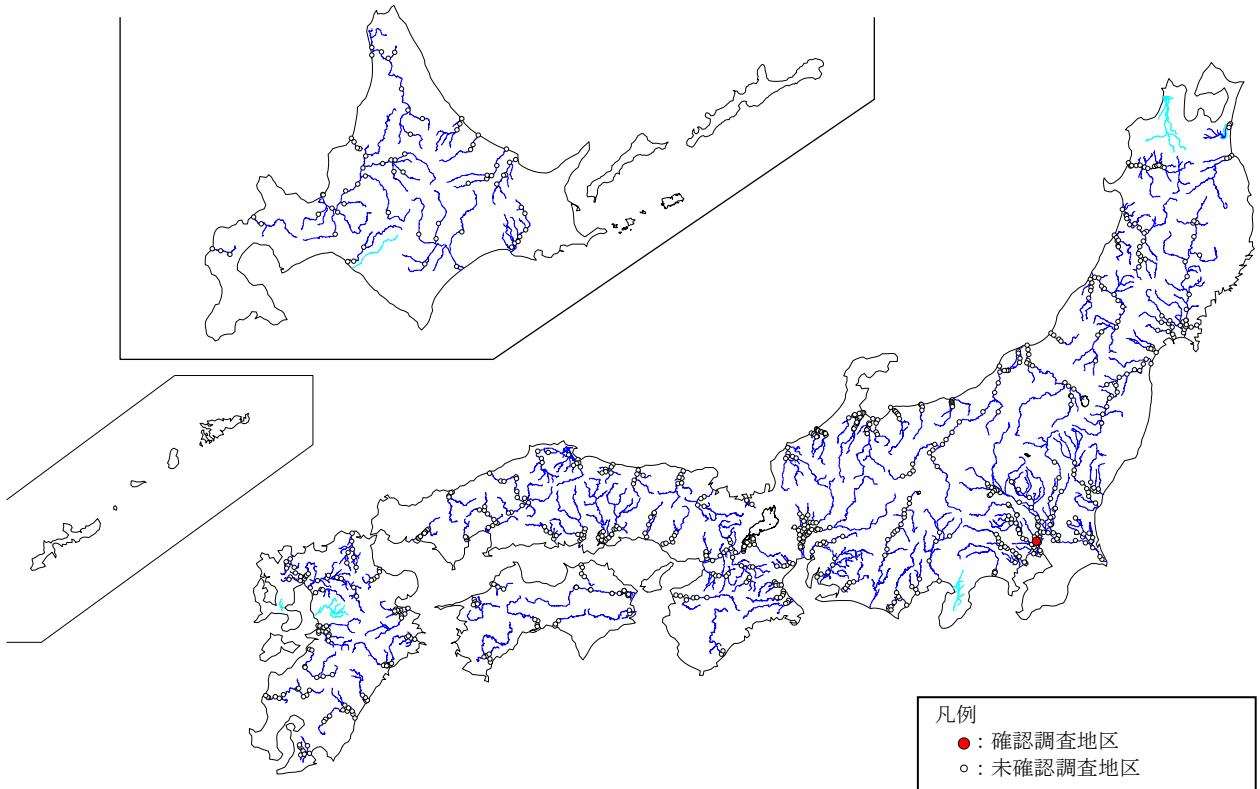


アナウサギの確認された地域（3 巡目調査、4 巡目調査）

1 巡目調査 (平成 3～7 年度)



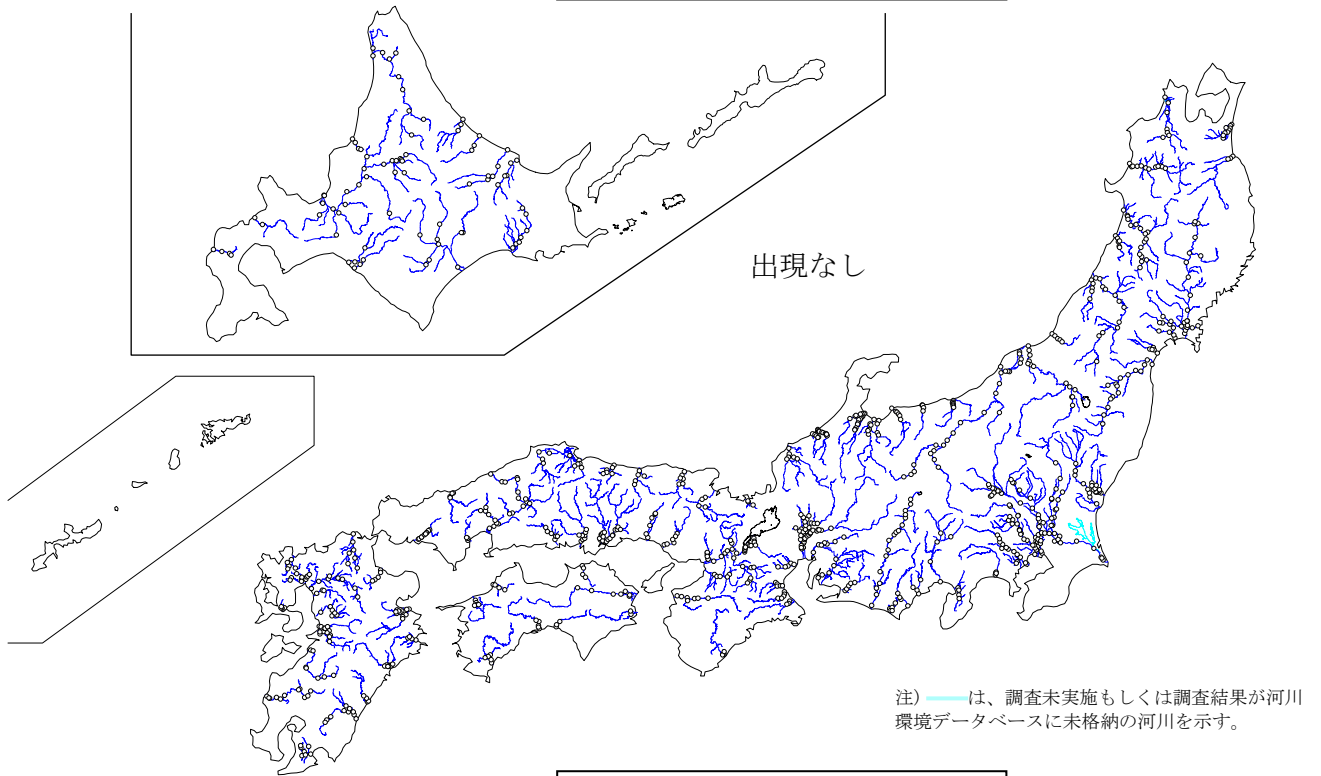
2 巡目調査 (平成 8～12 年度)



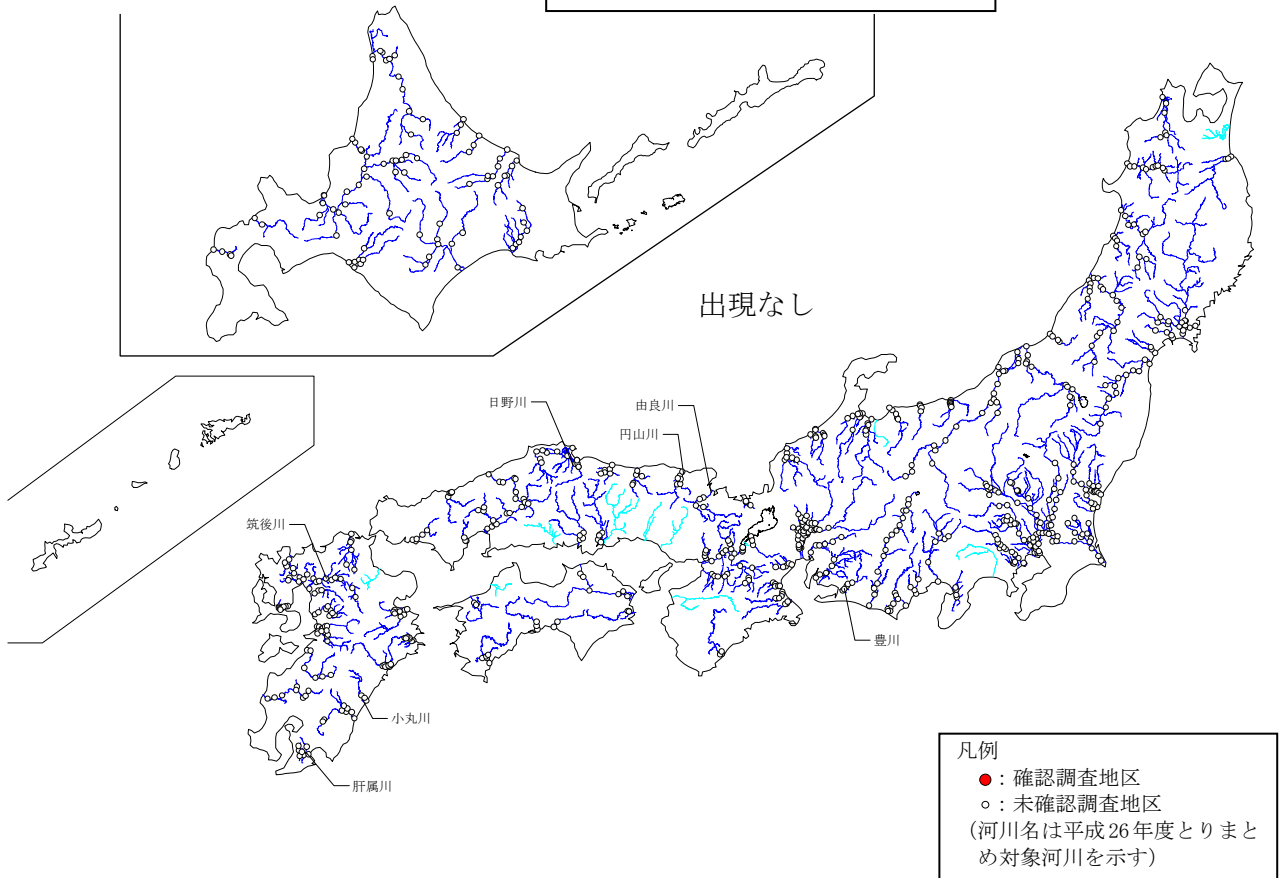
注) 〓は、調査未実施もしくは調査結果が河川環境データベースに未格納の河川を示す。

ゴールデンハムスターの確認された地域 (1 巡目調査、2 巡目調査)

3 巡目調査（平成 13～17 年度）



4 巡目調査（平成 18～26 年度）



ゴールデンハムスターの確認された地域（3 巡目調査、4 巡目調査）